

博士号のとり方 ―学生と指導教官のための実践ハンドブック

□ ■ 目次 □

まえがき 1

日本語版に寄せて 4

第四版への序文 7

■ 第一章 博士課程の学生になる

博士課程教育の性質 24

研究学生になる心理学 27

本書の目的 28

まとめ 29

23

■ 第二章 博士課程に入る

分野から研究機関を選ぶ 30

科学的研究プログラム 32

入学要件 33

研究費と研究サポート 35

30

通信教育	36
仕事の環境を選ぶ	37
指導教官を選ぶ	39
研究学生としての始動	40
博士課程の俗説と現実	41
象牙の塔	41
人間関係	42
チームワーク	43
まとめ	45

■ 第三章 博士学位の本質

博士号の意味	46
完全なプロ研究者になる	48
修士号と博士号の違い	51
学生のねらい	52
指導教官のねらい	55
論文審査官のねらい	57
大学と学会のねらい	58

46

ミスマッチと問題 60
 まとめ 62

■ 第四章 博士号をとらない方法

博士号をとりたくない 63
 博士号の必須要件を過大評価することによる誤解 66
 過小評価による博士号の要件の誤解 69
 博士号の要件を理解する指導教官を持たないこと 71
 指導教官との連絡が途絶えること 73
 論文を持たないこと 75
 修了前に就業すること 78
 まとめ 80

■ 第五章 研究の仕方

研究の特徴 81
 情報収集―「何？」の質問 82
 研究―「なぜ？」の質問 83
 よい研究の特徴 83

■ 第六章 博士論文の型

博士号の型を理解する 93
 背景となる理論 94
 焦点となる理論 95
 データ理論 96
 貢献 97

研究は思考のオープンシステムに基づいている 83
 研究者はデータを批判的に考察する 84
 研究は汎用性の限界を一般化し、かつ特定する 85

仮説検証型研究方法 85
 研究の基本的タイプ 87
 探究型研究 87
 検証型研究 87
 問題解決型研究 88
 博士号のための研究はどのタイプ？ 88
 研究する技法 90
 まとめ 92

章立ての詳細な枠組みと選択 98
 オリジナリティーのコンセプト 100
 論文を書く 103
 リライトの過程としてのライティング 103
 執筆者のタイプの違い 104
 本腰を入れる 106
 論文そのもの 108
 代替論文スタイル 110
 提出前の「出版」の是非 111
 まとめ 113

第七章 博士課程のプロセス

心理面 114
 興奮 114
 孤独 116
 仕事に興味がわく 118
 指導教官依存から研究依存へ 118
 退屈 121

フラストレーション 122
 終わらせるべき仕事 123
 幸福感 124
 その他「最初に始めること」 125
 実践面 126
 タイムマネジメント 126
 就学期間 129
 研究段階 130
 長期目標、短期目標の再定義 133
 締切りの重要性 135
 自助努力と相互扶助グループ 136
 インターネットグループ 138
 博士課程中の教鞭 139
 カジュアルティーチング 139
 ティーチングアシスタント 140
 まとめ 142

第VIII章 指導教官との付き合い方

- 指導チーム 143
- 指導チームの限界 144
- 指導教官が博士課程学生に期待すること 147
- 指導教官は学生に自立して欲しい 147
- 指導教官は学生に草稿ではなく原稿を書いて欲しい 149
- 指導教官は学生と定期的に会いたい 150
- 指導教官は学生に進捗を正直に報告して欲しい 152
- 指導教官は学生に指導に従って欲しい、特に大学院における指導においては 152
- 指導教官は学生に驚きのある楽しい仕事をして欲しい 153
- 指導教官を「育てる」必要性 155
- コミュニケーションの壁の取り払い方 157
- チュートリアルの上達 158
- 指導教官を替える 162
- 指導における不適切な関係 165
- まとめ 166

第IX章 英国系、白人、男性、フルタイム、異性愛者が圧倒的多数を占める

- アカデミック環境で生き残る方法
- パートタイム学生 168
- 留学生 171
 - 英国で暮らす 172
 - 英語で自己表現 174
 - 英国の博士教育文化 175
 - 民族的マイノリティー 178
 - 人種上の嫌がらせ 180
- 女子学生 181
 - トピックや研究方法の妥当性に関する難しさ 182
 - コミュニケーション、ディベートとフィードバックの難しさ 183
 - アカデミックのロールモデル不足 184
 - セクハラ 186
 - ゲイ、レズビアン、バイセクシャル、トランスジェンダー学生 189
 - 同性愛差別ハラズメント 190
 - 熟年学生 191
 - 障害を持つ学生 192

障害者法	193
障害者ハラスメント	194
まとめ	195

第X章 審査制度

博士課程へのアップグレード	200
提出の告知	201
審査委員とのアポイントメント	201
論文提出	202
口頭審査	203
口頭試験のための準備	204
審査結果	207
抗告手続き	211
訴訟	213
まとめ	213

第XI章 指導と審査の仕方

学生が指導教官に求めているもの	214
学生は指導を求めている	214
学生は指導教官に書いたものを事前によく読んで欲しい	217
学生は指導が必要な時に指導して欲しい	219
学生は指導教官にフレンドリーで、オープンで、親身でいて欲しい	220
学生は指導教官に建設的な批判をして欲しい	222
学生は指導教官に研究対象についてよく知っていて欲しい	223
学生は指導教官に指導をスケジュール化して欲しい、 そうすれば意見交換が比較的楽にできる	223
学生は指導教官に自分の研究に興味を持ち、 進むべき道についてもっと情報を与えて欲しい	225
学生は指導教官に修了時によい仕事を得るための 研究上の成功に十分にかかわって欲しい	226
ロールモデルの確立	226
研究手法の指導	227
効果的なフィードバック	228
計画的な「自立」プログラムの導入	235
学生の助けになる「心のつながり」の維持	239
学生のアカデミックな役割を發展させる励まし	241

非伝統的学生の指導

242 242

パートタイム学生

242

留学生

244

少数民族

248

女子学生

249

ゲイ、レズビアン、バイセクシャル、性同一性障害の学生

251

熟年学生

252

障害者学生

253

リサーチアシスタントの指導

254

よい指導の結果

255

指導力のトレーニング

256

審査の仕方

257

口頭試験

260

まとめ

263

第Ⅳ章

研究機関の責務

大学の責務

267

博士課程学生のための全学的取り組み

267

地域ハブへの参加

268

学生支援

268

博士課程の学生を支援する研究科の設備

268

全学的な導入課程

269

研究生のためのハンドブック

270

語学のサポート

271

非伝統的學生へのサポート

272

指導教官のためのリソース

273

指導教官のトレーニング

273

博士課程指導のためのヒント（ティーチングクレジット）

274

研究科博士課程研究リーダー

275

適切な規制

275

博士課程学生の選抜

275

学生の進捗把握

276

修士から博士への登録変更

277

外部審査員のアポイントメント

278

博士号レビューのためのフォーラム

278

一連のプロジェクトとしての博士号

279

博士課程学生著作の知的財産権と適切な認証	280
実践ベース専攻の博士号	282
専門博士号	284
研究科の責務	286
研究科の研究チューター	286
入学試験の質向上	289
指導教官の選択	291
適切な指導のためのガイドライン	292
研究学生のためのサポートグループ	293
コースワーク	294
集団指導体制	295
まとめ	297
結論	298
付録 学生のための研究進捗自己診断	300
訳者あとがき	305
参考文献	307